



〔弥次・喜多〕 原宿に着いて

”まだめしもくはず沼津をうちすぎて
ひもじき原のしゆくにつきたり”

そばやに入りそばをたべたあと、くすりをのむとき
おゆではきかねえからつゆをたのむ

”今つくしそばはふじほど山もりに
すこしこころもうきしまがはら”

間の宿 柏原で 鰻の蒲焼の匂いを嗅ぎながら

”蒲焼のにほいをかぐもうとましや
こちらふたりはうんなぎのたび”

原宿 吉原宿より3里6町 名物 鰻の蒲焼

本陣1、脇本陣1、問屋場1、旅籠25町並み南19町33間、北17町16間
この辺り、大雨が降ると湖のようになることから浮島沼といわれていた。
沼と駿河湾の間の砂丘に出来たので”原”と呼ばれた。

江戸中期より開拓が行われた。伊豆菰山代官の江川氏の支配地。漁業
も盛んで魚を将軍に納める五十集(いざば)がいた。
富士の眺めはすばらしいこの浮島原は古くから歌枕として多く詠まれ
鎌倉時代の海道記、東関紀行に記されている。

”あしがりの関路越え行くしののめに一むらかすむ浮しまが原”後京極摂政前太政大臣
(新勅撰集)

”影ひたす沼の入江に富士のねの煙も雲も浮島が原 (東関紀行)



天守台跡

興国寺城址

根古屋



望嶽碑

文化5年(1808)尾張藩、侍医柴田景浩が
ここに佇み、富士山のすばらしい景色を
見て建てる。

境内には昭和54年10月19日清水港より
救援米を運ぶ途中、台風20号で遭難した
ゲラティック号の遭難碑が建つ。



松陰寺(臨済宗)と白隠禅師

弘安2年(1279)天祥西堂が開創し、鎌倉円覚寺の末寺であったが
その後、中絶。江戸初期、興津清見寺の大瑞宗育が再興。
宝永4年(1707)の宝永山の噴火で大破。再興したのが白隠禅師。
白隠は貞享2年(1685)、原宿の長沢家に生まれ、岩次郎といった。
15歳の時当寺で得度、全国を行脚、修行後、享保2年(1717)
松陰寺住職となる。民衆に、かな混じりの文章や絵で布教活動
して江戸仏教界に新風を吹き込む。
”駿河には過ぎたるもの二つあり、富士のおやまと原の白隠”と
いわれるほど全国に知れ渡った。84歳で没。

境内には師の墓、岡山藩主池田継政が贈ったという”備前焼の鉢”
をかぶった松がある。



興国寺城址 (早雲の出世城といわれる)

駿河守護職の跡目争いの時、長享元年(1487)
伊勢長氏(北条早雲)が小鹿範満を討って今川
氏親の相続を後押しした恩賞で今川氏からこの地
に封じられる。伊豆、甲斐、駿河の結節点として重要
な役割を担っていた。
延徳3年(1491)早雲が伊豆の足利茶々丸攻め、伊豆に
移ると今川のものとなり義元が天文年間(1532-54)
に本格的な城郭を築いた。その後北条、武田、徳川
の支城となり、慶長6年(1607)天野三郎兵衛康景が
一万石の城主となるが家人を殺害したことから改易
となり廃城となる。(駅より片道2.6km)